

市議会議員が



総務文教常任委員会、市民厚生常任委員会、産業建設常任委員会が、それぞれ担当している事業及び関連する施設を訪ねて、現状を学びました。その様子を報告します。



児童クラブメイト 総 利用者増加に対応

吉田南小学校区では、大規模な団地造成に伴い、今後児童クラブの利用者数の増加が見込まれる。そのため、旧吉田南保育園を大規模改修し、「児童クラブメイト」を小学校から移転することにより受け入れ定員数の拡大を行なった。

受け入れ定員倍増

Q 新たな児童クラブの受け入れ定員数はどのくらい増えたのか。

A 受け入れ定員は65名から120名に拡大した。

増

燕消防署 総 市民の安全確保のために

昭和55年(1980年)建設から築45年が経過し、老朽化が進む燕消防署。改修工事に向けて現地を視察した。

施設の機能改善と安全性を確保

Q どのような改修を行うのか。

A 照明のLED化や浴室の改修、シャワー・乾燥室の整備、車庫前舗装下の空洞対策などを予定している。

安



済生会新潟県央基幹病院 市 地域医療の中核

地域全体で住民の健康を支える医療体制を築くことの重要性を踏まえ、県央エリアの急性期医療を担う県央基幹病院を訪ねた。

市民のヘルスリテラシー^(※2)向上を

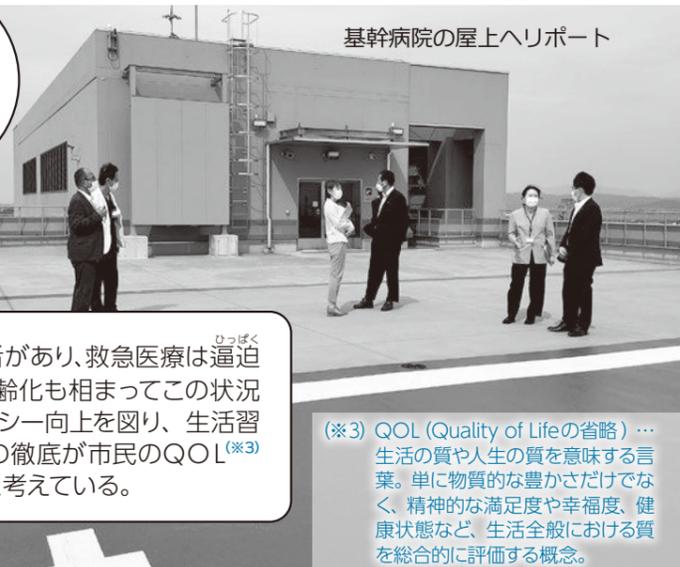
Q 救急系受入が想定を大きく上回っているとのことだが、その状況や対策を伺いたい。

A 当初目標約6000件に対し1万件を超える救急患者があり、救急医療は逼迫している。入院に至らない軽症患者が多数を占め、高齢化も相まってこの状況は続く可能性があり事態は深刻だ。市民のヘルスリテラシー向上を図り、生活習慣改善や高齢者の日常生活支援、一人一人の予防行動の徹底が市民のQOL^(※3)向上と持続可能な地域医療のために不可欠ではないかと考えている。

(※2) ヘルスリテラシー…健康や医療に関する情報を集め、それが信頼できる情報かどうかを判断し、自分の健康管理や病気の予防に役立てる能力。

(※3) QOL (Quality of Lifeの省略)…生活の質や人生の質を意味する言葉。単に物質的な豊かさだけでなく、精神的な満足度や幸福度、健康状態など、生活全般における質を総合的に評価する概念。

医



基幹病院の屋上ヘリポート

株式会社 楽々 産 最先端技術を活用

従来とは異なる最先端のIoT^(※1)技術を活用したキノコ生産システムを提供している「株式会社楽々(らら)」を訪ねた。

Q この生産システムの特徴は。 地球にやさしい栽培

A IoT技術を活用してキノコの生産環境を自動管理・最適化しており、省力化と高品質を両立させている。また廃棄物も削減できる環境配慮型の生産システムであり、添加物・栄養剤を使わずに有機栽培が可能。温暖化ガス排出量も大幅に削減できるなど、国内外で特許を取得した他に類を見ない技術となっている。

活



(※1) IoT (Internet of Thingsの省略)…家電製品、車、建物、工場の機械など様々な「モノ」をインターネットに接続することで、離れた場所から対象物を計測・制御したりモノ同士の通信を可能にする技術。

大河津分水路改修工事(山部掘削現場) 産 令和20年度完成目指し大改修

1922年の通水以来、地域の治水の要となってきたが、老朽化や洪水処理能力の不足が課題となっており、令和20年度の完成を目指して改修工事が進んでいる。

Q 直近の課題は。 新たな掘削土の有効活用先の確保

A 改修工事では、大量の掘削土が発生するが、その利用先の確保が課題となっている。掘削土はこれまで堤防整備や農地のかさ上げ、卸売市場の盛土材などに活用されてきたが、掘削土の発生量が非常に多いため、全てを地域内で消化しきるのが難しく、今後も新たな有効活用先を見つける必要がある。

改



ひまわりの家 市 創作・生産活動の機会を提供し、社会参加を促進

ひまわりの家は、燕市にある生活介護事業所で、NPO法人が運営している。障がい者の自立支援を目的に、日常生活の介助や創作・生産活動の機会を提供し、社会参加を促進する施設である。

地域連携で交流を深める

Q ひまわりの家ではどのような支援やプログラムがあるか。

A 障がいを持つ方々が安心して生活できるよう、日常生活の介助、創作活動、生産活動、リハビリテーションを実施している。また、年間行事を通じて、利用者の社会参加や自己表現を促し、より豊かな生活を支援するなど地域との連携にも力を入れ、交流を深める機会を提供している。

促

総務文教常任委員会

市民厚生常任委員会

産業建設常任委員会